中村俊定文庫
文庫 18
589

題翁反故巻首

北山　山本喜六撰

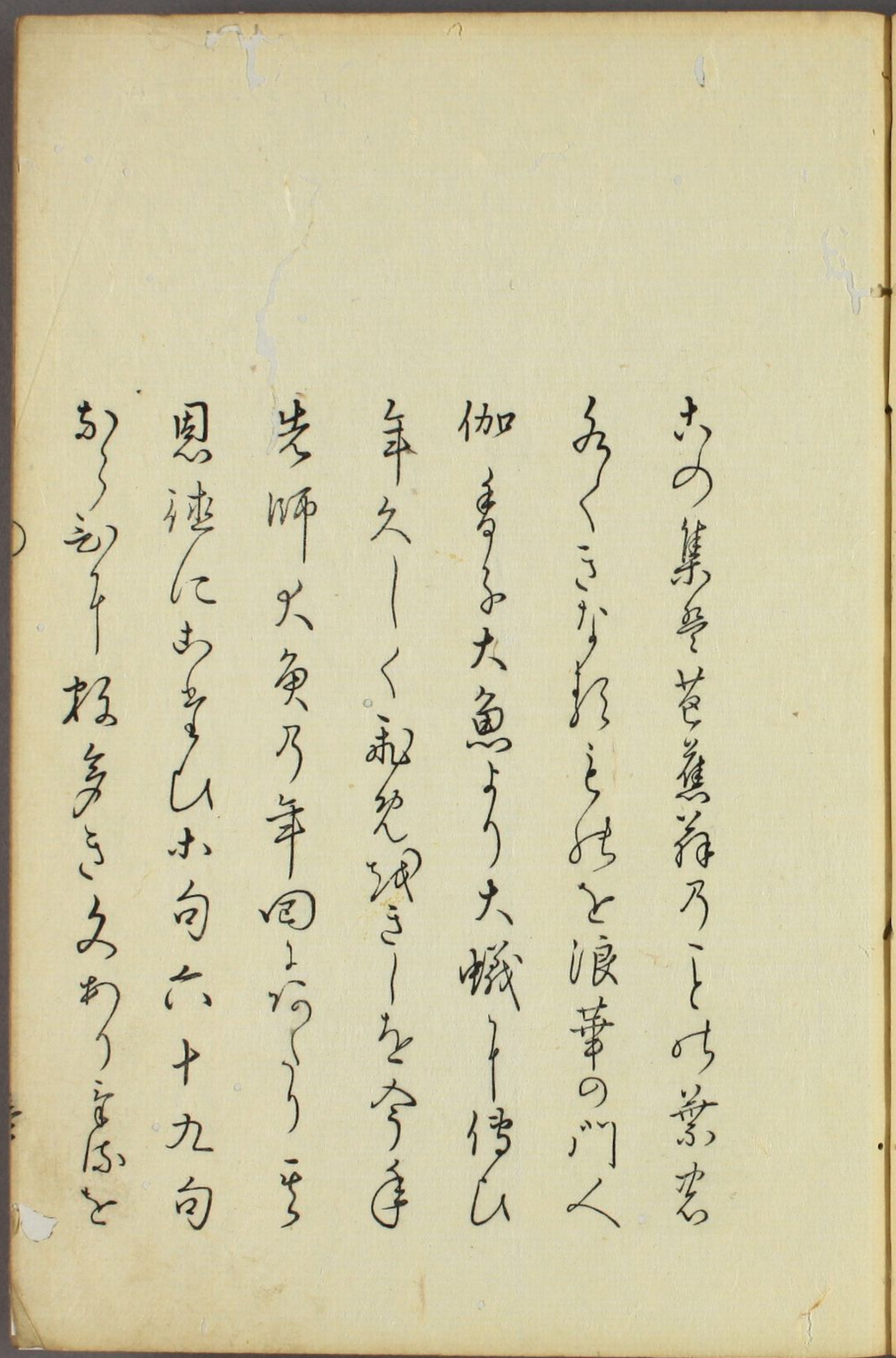
姫路松岡大蟻家藏蕉翁遺墨九三百餘枚居常愛重十襲不翅一旦盡出贈諸風流同好者蓋有所感也然其所既甚愛不

能恕焉辨髪視之作一小冊子
記其文字及所贈人名時々循
覽之以獨自樂豈看業蕉翁之
事者秀圀以好尚相同與大蟻
親善見而大嘉之慨然謂大蟻
曰蕉翁既以風流之樂與海内

雅士子也又景慕蕉翁之風流
何不与海内而為獨自樂也宜
梓々而公于世使人知蕉翁遺
愛及反故紙却不亦報蕉翁之徳一端乎且以
是徴子所贈真跡於百年

之後不[上]忘漫善乎於是相共謀
上木之拳一日大蟻来議所以
名此書余笑曰是数十番反故
紙耳只當題曰翁反故名不必
別求可也
門人輪池屋代詮賢書





秀國

柳田國男藏書

中村俊定文庫

濃州陽
随筆
ともや
ことを
乙井
翁小

こゝ彼法君よりおもふに
余通寺におさなくて梅名大魚のみ
をつくすと云爾

芭蕉翁三世門人
大蛾

俳諧蓑虫説

人あさ我ぼろをなる虫の名為楽蓑雪川云

嵩とくい碇を作るの利といふ事の出る所
名所旧跡を作るの事を

口上

大松ちやうん琴ゑん

ミかく中合ゐの気ゐる納ゐ

まて吐波ゑ波入ゐ

梅ゐ

名大野　み庫

梅ゐ

清志ま

物主

用公家

郭ゐ

二ゐ

名山名源山ゑ

古屋しきに芥子市神ゝ
うつまもこのゝ　　もゝ代
名古井梅旭公
○
大津絵ふうつゝ
うるさゝい
之ゝ
坂治丈　　もゝ代

右当家文庫
小宮ゝ風
二本いれ
梅
右楚江　　もゝ代
○
かけ
うる

梅の実
名を家の庭
○
枯れ川や伊勢の海のおもかげ　そせん
名長國ニ
○
春山路
十一月廿日なるべくおのく

梅の実
名九毛ニ　そせん
○
新茶一袋
六ケ敷、もれ梅入
梅の実　そせん
名八朱氏
○

夏の夜のまよひあるきあかな　芭蕉

右貴家文庫

○

岬の菜畑のぬしや秋くせん

右貴家文庫　上ゟ三句

○

雪ふしいろさ田こ穂のそなえや　ふせん

右貴家文庫

○

みちのくへ行途のう旅の

森さやきやまくに

ちかき山ぎわの二句を十

ふせん

むく起に陳乃花や白しろ

三月生る

○

栃石丈

右現在唐桂阿云

○

玉なす花をうつみ新なる妙梅かもとせ我

右龍堂云

○

穂薄のおもなる野分哉　とせ我

右

一里塚の夢
春ごとに
中に杉入く
桜石ゝ
ゝる湯摩江
○
八ゝ
ゝ松のかゝる
五文字三ツ

旅情の静あるハ
淡きをよろし

波しぶく人ハ舟あり月ハ秋　石寿秀国

名ころ旬　なれ川と白巨川

一幸ハ橋情の風光をとゝむ

○

雪ふらぬまへに加納へ急のもる
ふる入せんさくらいさき野て
おもひやるもの　玉也

かの中泉祇定

○

今ふる村ふる神のまつえ中坂ゝ氣
ふたゝ行ゝかの天神の中集まる居ゝ
只今ハ月ゝかしうかりて
九ゝ

梅石丈　玉也

名東江源錄

笑ふべく狼かよ

○

口上

夕飯にハのつきものゝ

元心をはじめ

ちる

九ろ助

古二素岡村微笑

○

汁ものゝ実

のある大根寺入院のよふ

世一打ゆるくもの

春月

梅乃実

名物をつゝ

○

口上

納豆出来候ニ付差
越申候間御試可
被下候

梅石丈　　そせん

○

名古屋名村思問

○

七晩庚申待延引のよし
残しく会ニ我雨

梅石丈　　そせん

○

等窮と意ふ
いとうくる

○

梅の穂ゟつゆ
宮阿州居貞律

○

返事

ちくさうまかいれんしゅ
う妓坊へうつす後一ツ

○

なでもちくうつや事和のそうまめをせん

岩二幸森田

○

此板甲子待乙寅口魯丁

しくうす事

きのへあよ森て待てを郎乙

○

杉檜く林のかりさよ秋の気

名吉川美國

○

梶月岩中芳根の松の画そうよ

枝ゝ
ゝ
ゝ
青山
名ゝ
○
口上
武

寂庵同

梅石文集

客秀國妻松女

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅石文集

○

八月十三日夜

[illegible]

下戸のみに宜き秋

古二章野津東籬

○

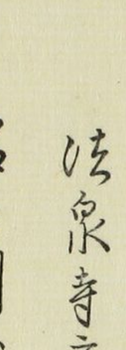
八幡の社家津崎氏改名

まうと称するもの二すぢ、越のう

○

夜発向二寺堰集一発

○



法泉寺方丈　玄下

吉川美國

○

えのきの松

○

千葉之連峰一桶之切仏

十一月十日

梅石おとゝ　　そせん

古二章安囚雪國

○

昨日ハ八日を迎へこの紙

梅石おとゝ　　そせん

古土州高知住

○

今日ハ月見を兼て孤井

梅石おとゝ　　そせん

古石凡古用

五月雨おつき取くく淋
ゐ〳〵一すゐ入来つゝり
淋さよ布とたゝ　かの子

○

森邑子ふ雲よりりしひし此大根
材かもつゝくゝる方よ、まこ彼、
西ゝりまる

正幸寺納ふ　　玉世我

古二幸小倉秀尾

○

等ゝ居ゝのさゝ響ゝ只今
ゝ入来彼入ゝ
梅ゝゝ史
古新井風禹　　玉世我

○

四母ゝゝりよゝゐゝるせふるみ
ゐくゝゝゝ礼ゐゐるゝゝ

梅ふる
公佐荷朝四
○
云ふ破矣
家を起ふりに枕する勿れ
○
此歌青山を杉へ出ると歌
村井氏の義ハいつもかく歌

古二章古澤秀妻
○
蒲江俊
七儀へ
軒を
玉山亀卿

六月六日
梅石史

○

古寺や詣う梅の花一木　そせん

岩二章村止秀魚

○

雨雨おふる梅の林くらする

青山さそひまち入くる

新六郎

岩外岡右幸

○

文性〳〵此年おかえるでる

一まいうりのり

八日

梅石史

古亀巣

○

一村美人會

古秀花菴盛國

○

[illegible]

[illegible]

名力九都九　義玉堂

○

万義会

同出会

多中城会

拇石会

名北刀祇北

○

吉年社

[illegible]

梅名月

○

殘の雪衆峰ちる旭うかむ也哉

名二妻堀尾千鶩

○

等雪殊外降ける時

連しや中〻よろこび入て

梅名月

名安足亭溫克

○

此庭のつゝ〻雪中明ける

家〻もめでたの松を引入て

青山史

古

○

和ろう浦指利風房在寄而
佛訣より手紙差上ル久法ち
入院ゟのお向北ゟる也中ゟ
きんちゃく物ゟ来てはえまりの事を也我
こりよせ
名宇鋪節士
○
此夕ゟれ中多色吸房ゟ不浦山
う条ゟ
ろこし物入ゟ
名中禽千枝
○
千筆ゟ不戸ゟ酒ゟ
りちもさいのゟのさゟ
ゟし斗一合斗ゟ

軽入

古

○

先る頃軽井沢の画如来谷
小雨安楽寺の出茶屋にて梅石へ
うつるのうついて
八月二日
雪舟老人

古

○

此る栗のさる時中る時小刀
うつす

古下谷全校板木師中村江川

○

和泉

○

行ふもやく〳〵

古今州玉塢園其長

そせん

○

おのやうなる葉のみ一茎書の
やうなるしか一升ばかりこし
ありかるし

三ノ

妙風抹

○

抹月九ノ

そせん

抹面を人ふとうえんとうの市 そせん

門松ノ立ちかざりもの

縄ノ玄い入ノ

古二素円蒸大鯉

そせん

十二月まで

宗祇より不破の関守る人々へ

古浪葉言林

○

十二月ミそそ

雨霰雪と沙りを師走かな

古烏門

○

口上

菊のこやし、移る年の松

一枝そうこのうち

ふるものうち

そう

古一机庵保牛

○

好みせよ菊を切んが為に

古円友

○

口上

これも成ら一筆差下おゐ
申面ゐれのとい
ゐ

青山史

○

歌ゐ時ゐ句ゐれゐことあれ古筆ゐ世我

古二吉ゐ居三ゐことゐり又ゐゐ

○

おゐ珍ゐ典三ゐことゐり又ゐゐ
ゐゐゐおハゐゐゐ末ゐ
少調ゐゐゐゐゐて
ゐゐ
ゐ又助ゐ

右

○

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

[illegible]
[illegible]
[illegible]

春八友

名三亭楼提

○

好礼篇をよむ扇よむ雪尺余

名擒見春岡未雞

○

まゝこ小好やうん松必雪

名奥氏二本松城囲解

○

好味あるひと日一壷送り来

まゝこ面の礼二本

十日

智雲老人来

名あるふ庵雪川云

○

夕陽亭庵公集る明春一会

う[illegible]

梅石多

六老風国宝美

○

尚私いきくなか[illegible]

[illegible]

[illegible]

名葛飾小名安倍栗

○

みちのくもの不摺石を摺染の縹
より未一里許りありて里人のいふハ
往来の人のむさぼるをにくみてこの谷を深し
入給ふなんものありてハかさまなりて

○

いまもさるつきさるものもありとや風俗の
むつかしきところなんいとおほかり
ける
名片山芹川　かをみちのくハ
○
彩雲間玉容寂寞梨
二三枝只為多情立
掛名安史

机のあ[illegible]こ[illegible]る大き[illegible]仲[illegible]人
五六すう[illegible]行[illegible]梅名[illegible]を[illegible]我[illegible]
名流州部[illegible]仲中久八

○

うつくしき[illegible]ものとう[illegible]送[illegible]ル[illegible]永
春とうの[illegible]へ[illegible]をる[illegible]
琉球を[illegible]
名玉田史易雄

○

小吉郎後[illegible]
[illegible]ふ[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

○
山川八妻女すゑなり旅まくら　とせ成
古
○
昭夕岩氏紀氏元氏不打
命由三なのひかくぬれ岩ほく
糸ふるしぬる元家次世又二
多くもまるおみなへしかの玉つゝ
此頃やもろ

○
梅の木　とせ成
○
みん一ぞ千就十メ送ら
糸春　まで礼ゝ
ゆふ

○
古二章　永田氏祇國
○

○

八日

梅の史

○

口上

高津の紙ふところ

くせ紙

○

口上

袁枚詠太平
古案山斑石
○
西申庵序の庭より持ち
来りしと人々
青苔や玉まく芭蕉二株二株
古寺稿成初

十二月二日

梅石

名義疑塾

○

春七

○

口上

一筆啓上

春七

名二章菊四有菜

○

○

岡ぞ[illegible]助友よりのふしゝ
やさ米ふ玉風味ふ[illegible]ふ[illegible]
ふ[illegible]

九ふ[illegible]　ふ世我

名近苞苔雨

○

此角ふ[illegible]ふ奎山ふ[illegible]ふ
友好[illegible]ふ[illegible]及延引中ゝ一寸

○

う系ふ[illegible]ふ[illegible]中軒入　ふ世我
名山ふ[illegible]ふ[illegible]

○

ふ[illegible]賀ふ[illegible]ふ義ふてふくふちふ
ケふくふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
う[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]
梅ふ[illegible]ふ[illegible]ふ[illegible]　ふ世我

十二月十日の
[illegible]
[illegible]

梅の史

六二章永井百勉

○

[illegible]

梅の史

六四章永井百勉

○

[illegible]

梅の史

六五章可文

○

梅の實のそこをさゝんれの風 そせ我

笑かしう
れのか入
名古屋篠う

○

陽柳観音の画讃

青柳の我うむま佛うか
吉川合氏某

○

某印よ眠る児の画讃

ツモレ〳〵こく起〳〵ろん秋の雪

六角義大嶽

○

新年
二三外
梅石
六渡

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

名[illegible]一[illegible]
[illegible]
名二李[illegible]花陵

○

[illegible]光寺[illegible]庵[illegible]

一會無[illegible]
[illegible]
梅石史[illegible]
名土佐言知路紅

○

志喜当地[illegible]
[illegible]
[illegible]

名三枝長風公

○

碓ヶ井より一杉迄うつり

よし岐名ゝをつゝしる

桜名子

名土州玉堀園其也

ゝせ

口上

吟ゝ岩戸へうつりうつり

栗ニ三升みやまに移ゝる

軒入

九ゝ

ゝせ

おゝ三好瓢舎

○

いとのやうなるそゝめん十ゐ

○

○

大そんにて

梅石子

門内の住画家

○

梅石子

○

梅石氏

用意よ何をかくさん
名三享詞迎寺

○

口上

初めの賀義にてちまき
七日每第二對迎下部
ちまき召れのし
柿名代

七世我

名四世比蓮塘岩谷

○

十二月吉日

雪をし馬をも乘ぬ我身かな　七世我

○

岸うつ山の雪一すじ

七世我

古二首素行吹石

○

疫ニハ蓮ノ葉ノうけかし

ちんハうまれあまへく

是も性ニよりてふまぬ事ぬ

ちんハ

ちせ

ちんハ

ちせ

古河ちんハ急性

○

ちんハ

性好物ニよりてふまぬ事ぬ

ちせ

古尾敗氏

○

性ニ

○

○

○

○

書肆の人いまゝで

○

書肆貞幹

○

梅もゝ

枝入

○

梅もゝ

くゝり

○

明もゝ

よりかゝせの行

又八角の

○

明もゝ

角の

○

梅もゝ

古妙我坂字林氏

○

幸山吟

杉ふかき山の中なる杉板

杉ふかき山の中なる杉板

六田舟

○

ぬれみのをほすかたの雲

○

千ふり雪

○

うの毛やまうつ

古二幸

○

野志一

まくら

杉ふかき山の中なる杉板

古永原我宮

○

明るき夜を矢立の筆

筈中に

土手

梅の木の枝下

古安間武角

○

七郎左衛門が宮ゝ参詣の

供廻りの

梅の実

筒もり

古仲平量

○

初かきし

ふみ方こゝろ

一句を
山くぢのおのがうへまで
名
○
口上
こゝ畑汁よろしくあるべい
粒のかぶ米ぬかをうゑ
梅の実よろしくあるべし

○

仔細の事ども有之的と存申
候得ども紙とう申紙弓之事ニ
らしく候ハ存寄無之候ふつゝ
梅石おも
古二寺ち
○

新条ニ
而毎ニ

○

新条ニ
月十三
梅石
○

多賀
古素風
○

○

ちゝ〻ま〻へ　処〻ろ〻ろ〻方〻

月公度〻を〻ま〻一〻か〻ら〻ら〻一〻ち〻

き〻ら〻

そ〻せ〻ん〻

未破滅白かし

○

小野村〻ら〻八〻と〻中〻五〻枝〻彦〻金〻

ろ〻ま〻ま〻ま〻の〻ち〻の〻葉〻ま〻き〻

そ〻せ〻ん〻

古二章〻ま〻ま〻ま

名河遥桂京

○

むら〳〵初渡三さかうへ
中〳〵方よく〳〵おそ
止て
名雨蛩京音
○
きよろ〳〵櫓そ
名寒艇塾

○

文中卯夜明る大坂へ着
と雨降りこ時分船よ一同ら
可〳〵敷と市中教の
名祇小波ち
○

砧れこのをかうて朱ろ朱神そ

○

石村氏ようやく山中へ
埴つくり
多くし
おいおい
古二ちなみ大、高不二吟

玉成

口上

尾をへたよりて
今ようやく。粧入りて
梅石
古森化粧

玉成

○

明る八津山ニ大蔵寺
うせて銭八仙林坊ゟ

六九

もめん糸くゝり袋入 一世ぎを打入
梅名物 くせ
古筆うつし 二箱
○
昨日ハ入来ニ而御馳走
物語ニ而一夜ハ申ニ而
うれしく存候 くせ

万吉参いまゝで御世話ニ
なり候ハゝ御礼茶ニ
只今ハ御ふしん中ニ
梅名物
名二幸藻魚貝賦
くせ

若もち
赤あかもち面ゝ礼の中

なつ二まで守田梶条

○

友吉ほくさうかうくおまれ
月宝友あくなく筆紙一句をゝ

一まき

未切あくなく白かし

古杉本玉句

うぐひすの杉ハ実ハ多年よ
枯々ゝ今ゝ木杉くく
古一ゝゝゝゝれゝ

杜久ゝ月玉友杉のみとゝ赤

古紫津

一時の八屋根雪積もらざる迄おく
積荷物を
ふもの中桃ざるハまゝくとあて
時分の頃の仕切を
出立前に
三月
梅もと
古云爾

清光寺の境内にて
雨雫うつ木の下に
名歌窗鶯前
毎月十三
○
山ふかみ
雉子の

○

うちやまのうつゝ〻流しもゝみぢ

鯉をとりやしと取めつゝきるよ

うつゝ〻湯水　　七世我

○

口上

此一会の外と書中

まうけうけたまはるべく候

梅ノ木

名二寺大鯉　　七世我

○

ちまきを笹葉まんちうみ中

梅入ル

名吉味之吟　　七世我

○

口上

名小牧指月

梅もとの

六日 指月

○

口上

名川止南枝

朱座久右衛門

おもひ

○

口上

うらけなくこそ

山村の月

見むと思ふ

○

古今古川園詠

○

おきなさび改名朝露をあと

うきものと

右大林氏

○

小梅一笑
[illegible]
右梅[illegible]

○

[illegible]
[illegible]

二[illegible]

右二幸[illegible]氏

○

口[illegible]

家[illegible]
[illegible]

十一[illegible]

梅[illegible]

此名をかりる行うち
杉木立
杉木立
名二章等木氏
○
ま切拳おきまりやうる十字ま
まいうつきさうを只今新入
くせ我

名田中なる
○
海小杉新食ふる場うと
水ふ新
杉石文
名河合
○
くせ我
等まいそうしく春ふ場る

りちきこえ秋次第

秋入

梢冬史

○

名苔梢訪菜里

梢雪清こゝろ乃春くもりつゝ

四方の風に乗りの字消つけ

垂ゝへくく雪山暁秋入

冬

梢冬史

名三世雪多秋尾谷

○

返事

小窓めのうら乃春雪こゝろ

青山史

名文賀

いも訪七つもうゝ六今うこし

松入

名松田妙雪

○

雨んもうゝ七ツもうゝ七ツあうゝとゞみつ

かうゝこゝ松入

名今川ゐき女

○

名八松入

味山介雨柳糸うゝ吸うゝ時う

何うゝ知うゝをうゝ若名こうゝ

金うゝをうゝ小雨ゝ

名日向坊宗永

○

○

○

○

うゝかうゝ我とゞんお郭篤

○

[illegible]

袋にぬひつけ候付切る

うの糸にて表地へ入れ

八月十日　もと

古可長

○

知海坊ノ下　もと

夜の景色筆意ありて面白

同乃いろ

まよい野ゆく人

○

古肥後桂栽

久八ノ字ゆく人

弓及延引

○

梅石丈
吉野見英峰

○

[illegible]
[illegible]
大雪ふる納而
石屋ゟ

[illegible]
[illegible]
[illegible]

○

○

○

○

等元百嵐多くうるを秋橘

うかし

おさし

○

十六文うり処

八文もの中ゟ西うこし軒入

もゝ我

名十寺西森宗益

○

栗一ト籾風ふき不和

なるよふくろ軒入

もゝ

○

初ふくしん十来めつきく味

ないよふくろ軒入

もゝ我

○

名二孝橋本旦那

○

久右エ門 娘おなつ 後村へ嫁入

也明二酉年より初而参詣

名根岸住郷

○

口上

○

依而人吟ニ吟中此句

四句ニ而一巻ニ仕候ニ付中ニ拙句も有之候

名東源寺儀兼善

○

文助 明ル未年 中国巡礼

右ニ付依之赤飯一重赤有之

右之段申上候

以上

梅石丈

○

春のうハ
あふなの
とふ一て味噌かくる梅
ちる迄只今うこ一杯入ル
ちせ我

名山本文雅

○

口上

元方高安
取次ぎて
多くの客の
杯入ル

宇

○

口あひのやまのやかさ
うしのやまのやかこ
のおなごは破失ニ
古岡州大割

○

○

橋ゝ
歌銘の
の足
橋ゝ
ゝ

○

口ゝ

自画
ゝ
ゝ
ゝ

名松壽観其國

○

口

主五〻於義〻ちまる

七永春〻〻教入れ

主也我

名接天樓呂英

汗癌瘍よハ切ふをつふ破ふ

主也我

名仁右衛

○

主ちゆ等〻時ふにうゆる也

うり〻大杉寺〻

主也我

名今川氏忠主女

○

[illegible]

[illegible]

[illegible]

梅石
右初春五覧水
小梅
竹
十
永沢
未波

右西村氏金砂

[illegible]入れる[illegible]

[illegible]万吉[illegible]

[illegible]

右九毛[illegible]氏記名

以上

[illegible]

[illegible]

[illegible]

蕉ハ羽没而九十年矣不
謂能ク諧若干今ハ無為ル
下ル派ヲ自リ角ル雲ル支ル峯ル連ル
滝ル無ク瓦ル生テ漱ル湧ル泉ヲ六十州ニ
無ル他ル貢ル源出ル於滝ヨリ也蓋シ
天下之味五ツ皆滝ヨリ出ル焉
焉雖ル然ト皆滝ヲ不ル有ル濃
ル有ル滝ヨリ出ル已ル味ヲ則チ
滝若五ツ味ノ骨ヲ而已
味ヲ滝ノ之色ヲ態ヲ也耳

極法有云曰礦之以甘炙之以
之以苦呉洛也ふこの通不
この通ルを又ゝ生性壺也
須日友人松大蟻鑷刻筒
之生墨ヲ筒曰筒反故業

就而請予言予云偖
極法不論ト筒足以製筒
ゝ生味ヲ困識ス後云
藤倉雨棄手ヽ

天明三癸卯年
秋八月四日

江戸日本橋通三町目
版元　松本善兵衛

江戸下谷金杉村
彫工　江川八左衛門

毎部符